2024（令和6）年度第3回

尼崎市人権文化いきづくまちづくり審議会

（人権についての市民意識調査及び職員意識調査専門部会） 会議録（要旨）

- 日時：2024（令和6）年12月26日（木）午前10時～正午
- 場所：尼崎市役所北館 4-1会議室
- 出席者
 - (1) 委員：5名（石元委員（部会長）、伊藤委員、内田委員、高尾委員、朴委員）
 - (2) 事務局：6名（文化・人権担当部長、ダイバーシティ推進課長、地域総合センター担当課長、ダイバーシティ推進課3名）
 - (3) 関係所管課：1課（人材育成担当）
 - (4) 関係事業者：(株)サーベイリサーチセンター
- 傍聴者：なし

議事(1) 意識調査に係る分析等について

部会長

初めに市民意識調査に係るスコア分析について、審議を行う。

委員

スコア分析については、前回の意識調査と同様の質問もあるため、経年比較を行うために実施した方が良い。問6から問10については因子分析を行うことで、スコア化ができるかと思うので、私の方で分析を行っても良い。

委員

問6から問10への因子分析については、問いごとに行うのか。

委員

スコア化を念頭に置いているため、問いごと因子分析を行う。

部会長

問6から問10については委員に調査・分析をお願いする。問20の「人権に関する法律・条例などの認知状況について」は、前回の意識調査でのやり方を踏襲しながら、SRCでスコア分析を行う。

続いて、意識調査に係るクロス分析について、審議を行う。

委員

クロス分析結果に対する有意差検定は行っているのか。

SRC

有意差検定は行っていない。

委員

有意差検定を行った上で、有意差が見られない分析結果は掲載を減らす方向で良いのではないか。

部会長

市民意識調査報告書の62ページ「5. 人権問題についての学習経験」について、各人権問題に対して「これまでに学んだ経験はない」と回答した割合が60歳以上の高齢者層で特に高くなっているため、各人権問題に対して比較的学習経験がある60歳未満のみで比較分析は可能か。

SRC

60歳未満のみでの比較分析は可能である。

部会長

有意差検定を行った各クロス分析結果に係る報告書への掲載有無については、改めて部会は開催せず、部会長と事務局に一任いただくということで良いか。

委員一同

異議なし。

委員

市民意識調査全体を通して、全体の数値を標本サンプルと追加サンプルを足した数値として出してしまうと、若年層が尼崎市全体よりも多いものとして取り扱わなければいけなくなる。また、前回意識調査ではこのようなサンプルの取り方をしていないため、経年比較が出来ないことから、年齢別比較以外の分析では追加サンプルは除外すべきではないか。併せて、市民意識調査報告書2ページの「5. 標本誤差」の記載内容についても再度確認をいただきたい。

SRC

そのように修正する。市民意識調査報告書2ページの「5. 標本誤差」については内容を再度確認させていただき、修正する。

部会長

続いて、市民意識調査に係る自由記述について、審議を行う。

委員

寄せられた自由記述を抜粋する場合、選ぶ側の価値基準が含まれてしまう。また、ポジティブ意見とネガティブ意見を均等に掲載するという点についても、寄せられた意見のうち、ネガティブ意見とポジティブ意見の比率が同じではない以上、実態に即しているとは言えない。具体的な地名等はマスキングした上で、すべての自由記述を掲載してはどうか。

部会長

真偽不明のもの、倫理的に問題があるものは事務局側で削除してはどうか。また、自由記述からどのような傾向が見られるのか等については、私の方でコメントを記載するということが良いか。

委員一同

異議なし。

部会長

続いて、意識調査に係る巻末コメントについて、審議を行う。巻末コメントについては、各部会委員より今回の市民・職員意識調査の分析結果を通して、専門分野問わず気づいた点等を箇条書きでご意見いただき、1月15日を目途に事務局へ送付いただく。その後、1月中を目途に私が各部会委員のコメントの取りまとめを行い、巻末コメントとすることで良いか。

委員一同

異議なし。

議事(2) その他

事務局

今後のスケジュールに関して、本部会の意見を反映させた報告書（案）を作成し、審議会（全体会）委員に展開する。その後、2月中旬頃に開催予定の審議会（全体会）において、意識調査の最終報告及び「（仮称）尼崎市多文化共生社会推進指針（素案）」のパブリックコメントの結果報告を行い、意識調査については3月中を目途に報告書を公表予定である。

部会長

それでは、これをもって、令和6（2024）年度第3回人権文化いきづくまちづくり審議会（人権についての市民意識調査及び職員意識調査専門部会）を閉会する。

以 上